2021年度アカデミックスキルセミナー実施報告

学習支援・教育開発センター　助教　**趙智英**
学習支援・教育開発センター　助教　**矢内真理子**

1．はじめに

本稿では、同志社大学学習支援・教育開発センターが主催するアカデミックスキルセミナー（以下、セミナー）の2021年度における実施状況について報告する。同志社大学ラーニング･コモンズの大学院生スタッフであるラーニング･アシスタント（以下、LA）によるセミナーの補助活動や、2015年度以来行われている商学部との連携についても述べる。

2．2021年度アカデミックスキルセミナーの概要

アカデミックスキルセミナーとは、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけるための講座である。講師は学習支援・教育開発センターの教員、アカデミック・インストラクターが担当する。同志社大学今出川キャンパスに良心館ラーニング・コモンズが開設された2013年度から、2019年度までの６年間、セミナーは対面で実施されてきたが、新型コロナウイルス感染症対策により2020年度はオンラインでの実施となった（矢内 2021）。2021年度も引き続き双方向リアルタイム配信とオンデマンド配信を併用し、秋学期後半は双方向リアルタイム配信と対面のハイブリッド形式でも数回実施した。

以下、春学期と秋学期に実施したセミナーの概要をまとめる。

２．１　春学期の実施概要

	セミナー名	実施日 （双方向リアルタイム配信）	オンデマンド 配信開始日
1	コミュニケーションツールの選び方	４月20日・４月26日・５月18日	なし
2	レポートの書き方･基礎	４月21日･５月13日･５月31日･６月11日･６月16日･６月22日	５月27日
3	レポートの書き方･応用	５月６日・５月19日・６月30日・７月５日	６月21日
4	メールの書き方	４月22日・４月27日・５月17日	４月26日
5	文献･資料の調べ方	５月11日・５月24日	なし
6	プレゼンの方法	５月12日・６月14日・６月25日	６月15日
7	レジュメの作り方	６月15日	なし
8	グループディスカッションの方法	５月26日・６月28日	５月28日
9	数式の読み方	５月10日・６月９日・７月９日	６月９日
10	Excelで学ぶ統計基礎の基礎	５月25日・６月21日・７月２日	なし
11	留学生のためのアカデミックスキル	４月28日・６月７日・７月６日	なし

表１　2021年度春学期実施セミナー一覧（順不同）

春学期は11種類のセミナーを全33回実施した（表１）。2020年７月から運用を開始したMicrosoft Teams（以下、Teams）チーム「リモート勉強室@おうち De LC」を2021年度に「おうち De LC ポータル」に改名し、セミナー配信専用チャネルで双方向リアルタイム配信をした。一部のセミナーは2020年度と同様、学習支援・教育開発センターのYouTubeチャンネルにおいて限定公開の形でオンデマンド配信をした。

セミナーの告知方法として、ラーニング・コモンズの公式ホームページとラーニング・コモンズ館内のデジタルサイネージを利用した電子ポスターの掲示、案内チラシの配布、ラーニング・コモンズ入口前に立て看板を設置するなどの広報活動を行った（図１）。

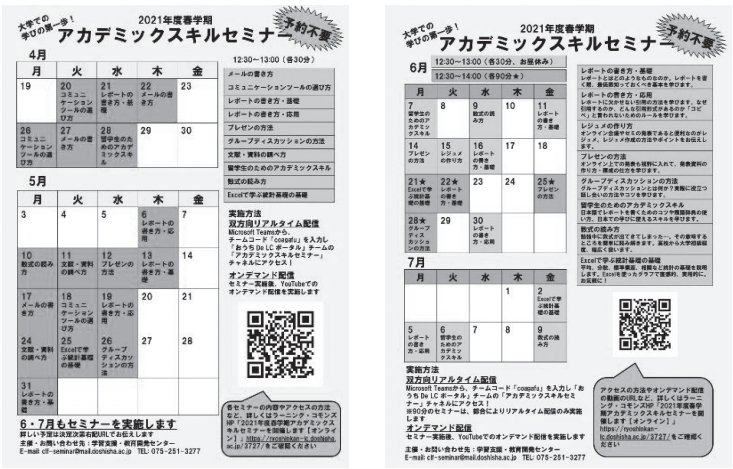

図１　2021年度春学期セミナー案内ポスター

セミナーの実施時間および分数は、１回当たり12時30分から13時までの30分と、12時30分から14時までの90分の２種類である。90分のセミナーは「Excelで学ぶ統計基礎の基礎」（６月21日）、「レポートの書き方・基礎」（６月22日）、「プレゼンの方法」（６月25日）、「グループディスカッションの方法」（６月28日）である。90分のセミナーは、コロナ前に対面でセミナーを実施していた頃も行っていた。30分のセミナーよりも時間に余裕があるため、ワークを取り入れたり、十分な質疑応答の時間を設けたりすることができ、受講生にも議論に参加してもらうことでアカデミックスキルへの理解をより深められるという利点がある。そのためオンラインでも試験的に取り入れた。

「コミュニケーションツールの選び方」は2021年度に新設された。本学のネット配信授業はオンデマンド型授業・双方向オンライン型授業・資料提示型授業の３つの形態があり、双方向オンライン型授業によく使われるZoomやTeamsのほか、学修支援システムDUET、e-classなど、授業に用いられるツールが多く、授業によって参加方法や授業担当者への連絡手段が異なる。そのため、新入生だけでなく、ネット配信授業や授業担当者との非対面コミュニケーションに慣れていない２年次以上の学生も少なくない。そんなコロナ禍におけるニーズに応えるべく用意されたセミナーである。

２．２　秋学期の実施概要

	講座名	実施日（双方向リアルタイム配信＋対面ハイブリッド形式）
1	卒論のここが心配　とにかく心配編	10月５日・11月２日（ハイブリッド形式）
2	卒論のここが心配　文献の入手編	10月７日
3	卒論のここが心配　理系編	10月15日・11月８日
4	卒論のここが心配　スポ健編	10月20日
5	卒論のここが心配　文学部編	11月10日（ハイブリッド形式）
6	卒論のここが心配　商学部編	11月16日（ハイブリッド形式）
7	卒論のここが心配　留学生編	11月５日（ハイブリッド形式）
8	状況別　卒論・研究相談関連の連絡のしかた	10月11日
9	卒論&院進のすゝめ	12月９日（ハイブリッド形式）
10	今さら聞けないレポートの書き方	12月３日・12月13日（ハイブリッド形式）
11	プログラムが動かないんだけど	10月25日
12	プレゼンの方法	12月10日（ハイブリッド形式）
13	オンラインプレゼンの方法	10月21日（ハイブリッド形式）
14	論理的に考える練習	11月24日（ハイブリッド形式）
15	聞き取り調査の方法　基礎編	12月１日
16	聞き取り調査の方法　応用編	12月15日

表２　2021年度秋学期実施セミナー一覧（順不同）

秋学期は、「状況別　卒論・研究相談関連の連絡のしかた」、「卒論&院進のすゝめ」、「今さら聞けないレポートの書き方」、そして「卒論のここが心配」シリーズなど、卒業研究、卒業論文に焦点を当てたセミナーを中心に16種類のセミナーを実施した（表２）。「卒論のここが心配」セミナーは、とにかく心配編、文献の入手編、理系編、スポ健（スポーツ健康科学部）編、文学部編、商学部編、留学生編を実施した。詳細は後述するが、文献の入手編以外はLAの全面的な協力を得て行われた。

秋学期はすべてのセミナーを12時30分から13時までの30分に統一した。秋学期のセミナーはオンデマンド配信をせず、セミナー告知の際に2020年度、2021年度春学期からオンデマンド配信をしているセミナー動画について併せて案内した（図２）。

春学期はオンライン上での配信のみだったが、秋学期は全19回のうち９回のセミナーをハイブリッド形式で実施した。ハイブリッド形式のセミナーは、今出川キャンパスで多くの対面授業が行われる教室棟・良心館の教室から中継した。館内を行き来する学生がセミナーの存在に気づき、飛び込み参加ができるよう、教室のドアを開けた状態でセミナーを行ったり、館内に対面でも参加可能である旨を掲示したりして周知を図った。

図２　2021年度秋学期セミナー案内ポスター
※10月５日と10月７日も実施

３．ラーニング・アシスタントの補助活動

これまでセミナーは、講師役の教員またはアカデミック・インストラクターが教壇に立ち、受講生に向けて一方的に知識を伝える講義形式が多かった。2020年度にオンライン上でセミナーの配信を開始してから、講師が必要に応じてLAに補助を依頼し、

講師とLAが２名で進行するという形を取るようになった。LAとは、ラーニング・コモンズアカデミックサポートエリアで教員、アカデミック・インストラクターとともに学習支援業務に携わる大学院生スタッフである。2021年度LAの所属や業務概要は、趙（2022）を参照されたい。

2021年度春学期は、14名のLAが全33回のうち20回のセミナーの補助を担当し、秋学期は、12名のLAが全19回のうち15回のセミナーの補助を担当した。セミナーの補助を担当するLAは、セミナーのための補助資料の作成や資料収集、整理だけでなく、講師とともに登壇し、対談形式で交互に話をしたり、講師がLAに質問をすればセミナーのテーマに関するLA自身の意見を述べたり、学部生の頃の経験談を交えながらアドバイスをしたりして参加してもらった。特に「卒論のここが心配」シリーズや「卒論&院進のすゝめ」は、各専門分野の現役大学院生であるLAの協力があったからこそ企画できたテーマである。卒業論文を実際に執筆したLAが、卒業論文の書き方、研究計画の立て方、大学院進学における準備過程などを実体験に基づいてアドバイスをし、講師は進行役、インタビュアーとなり、LAの言葉を引き出す形で進められた。中には、講師とセミナーの趣旨を共有した上で、セミナーの構成や進め方の決定からコンテンツ作成までLAがすべて行った回もあった（図３）。

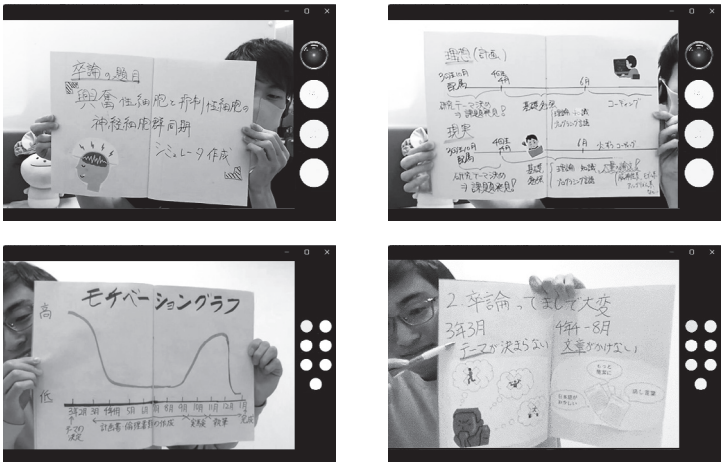

図３　LAが補助活動を行ったセミナーの一部

これまではスライドを画面共有したり、黒板の板書を映しながら双方向リアルタイム配信のセミナーを行うことが多かったが、ノートを用意して見せながらプレゼンをするLAもいた。手書きのグラフやイラストを活用し、スライドを画面共有するよりも目を引く形となった。

このようなセミナーにおけるLAの参加度、積極性のおかげで、LAが参加したセミナーは同じテーマでもLAの専門や個性によって多種多様な形となった。講師が１人で話し続ける従来のセミナーとはまた違い、LAと協同でセミナーを行うことでほどよい緊張感も生まれるし、LAが学生目線で講師に質問をしたり、雰囲気を和らげる会話をしたりもできる。何よりも、アカデミックサポートエリアで学習相談に大いに関わっているLAが、セミナーを通じて直接的に受講生に学習相談利用を呼びかけることで、セミナー実施当初の狙い、すなわち「学習相談の利用につなげたい、もしくはLCを利用したなんらかの自発的な学習につなげたいという想定」（矢内 2021）に少しでも近づけることができたのではないかと考える。

LAにセミナーの補助活動を行う機会を提供することは、LAの学習支援能力を涵養する取り組みでもある。LAは日頃ラーニング・コモンズアカデミックサポートエリアで学生の授業外学習に関する助言、相談業務を担当している。大学での学習や進路について悩みを抱えてアカデミックサポートエリアに訪れる学生に対し、わかりやすく伝えるための工夫や、相手に共感し励ますこと、チームワークで学習支援に取り組む姿勢で業務にあたるよう心がけている。学習支援・教育開発センターとしては、本学学生がLAから学習支援を受けることによって学習成果の向上を図ると同時に、LAに教育経験を積む機会を提供することによって教員・研究者としての自立を奨励している。相談業務だけでなく、セミナーで各学問領域共通のアカデミックスキルを伝授する立場に立つことは、LAの教育能力の開発と実践経験を積むという側面でプレFDの一環とも位置づけられるだろう。2022年度も引き続き、LAのセミナー補助活動がLAにとっても、セミナーの受講生にとっても有用な形で残るような取り組みを行っていきたい。

４．アカデミックスキルセミナーにおける商学部初年次科目との連携

本項では、2021年度のセミナーにおける、本学商学部の初年次科目「アカデミック・リテラシーⅠ」（春学期開講。以下、アカリテ）との連携について報告する。

学習支援・教育開発センターと商学部は、2015年以来セミナーを軸とした連携が続いている。2015年度の連携とその意義については、鈴木・岡部・浜島（2016）を参照いただきたい。連携の具体的な形としては、アカリテの受講者がセミナーを受講し、所定のレポートを執筆したうえで、セミナー受講時に発行される受講証明書とともに

アカリテ担当者に提出することで、一定の点数をアカリテの評価に加点する、という形を取っている（以下、加点措置という。矢内 2021）。セミナーにおける受講証明書発行は、2019年度まで対面で実施されてきたが、2020年度はコロナ禍により春学期のセミナー実施を見合わせた。2021年度は１年ぶりの春学期の実施となるとともに、オンラインでの開催となったため、新しい形での受講証明書の発行の形を模索することとなった。課題となったのは、第一に本人確認をどうするか、という点と、第二にいかに受講生にとってスムーズに受講証明書を発行できるか、の２点となった。

従来の形式では、ラーニング・コモンズの公式ホームページからの予約受付時に氏名・メールアドレス・電話番号を入力し、さらに当日参加時にも受講者が出席票を提出し、希望した者に受講証明書をセミナー終了後その場で発行する、という形を取っていた。証明書発行時には日付入りのセンターの印鑑をセミナー担当者が押印し、その押印がない証明書は無効とした。この形をとることで、センターでは受講証明書を発行した者の記録を取っていた。この方法であれば、先述の２点の課題は解決されていた。

2021年度はオンライン（双方向リアルタイム配信・オンデマンド配信）のみでの開催となり、その場に学生がいない、という状況が生まれた。これにより、従来の開催場所にかかわる参加人数のキャパシティーに関係する制限がなくなり、予約制を取る必要がなくなった。また、オンデマンド配信により、セミナー担当者と受講生が同時間にセミナーのために予定を合わせる、という時間上の制限もなくなった。空間・時間からの開放は、セミナー開催上の利点であるが、セミナー計画担当者である筆者は頭を悩ませることになった（先生方の中には、コロナ禍当初、どのようにして出席をとるか、苦慮された方がたくさんおられることと思う）。その中で取った方策は、紙の受講証明書の代わりに、Microsoft Forms（以下、Forms）を用いたアンケートを実施することであった。具体的には、アンケートの項目として氏名・学生ID・学部・学年を設定したうえで、アンケート送信時に自動的にForms設定者に送信される氏名とメールアドレス、これら６点の情報を、アカリテ受講者に限り、アカリテ担当者に提供する、という方法を取ることにした（関連し、同志社大学のアカウントでないと回答できないよう設定した）。もちろん、アンケートの説明文にも同様の記載をし、回答者に理解を求めた。さらに、アンケート送信後に受講証明番号を表示し、受講者が番号をアカリテ担当者に提出するレポートに記載することで、受講証明書の代わりとした。

これらの仕組みをセミナー開始までにアカリテ担当者に連絡し、セミナーがスター

トした。2021年７月29日に開催された2021年度第1回商学部導入科目運営委員会では、アカリテ担当者の先生方から「何らかの理由でアンケートに回答できなかった学生がいたが、レポートの内容をみて受講したとわかり、加点をすると判断した」、「オンライン授業を受けたり課題に取り組んだりすることに精一杯で、セミナーなどに参加する余力がなかったのでは」（第１回導入科目運営委員会）などの声が寄せられた。

2022年度においては、対面・双方向リアルタイム配信・オンデマンド配信の３形態での実施が予定されており（本項執筆時点）、本項で述べた方法からさらに改善し、より受講者が利用しやすい形での受講証明の発行のあり方を検討している。

最後に、川満直樹先生、五百旗頭真吾先生をはじめとした、商学部導入科目運営委員会の先生方、商学部事務室の皆様に感謝申し上げる。

５．おわりに

以上、2021年度セミナーの実施概要や、LAのセミナー補助活動、セミナーにおける商学部初年次科目との連携について述べた。

コロナの状況が落ち着いてからも、しばらくはセミナーを対面だけでなく双方向リアルタイム配信やオンデマンド配信を続けた方が、より多くの学生のニーズに応えられるだろう。しかし、双方向リアルタイム配信といっても、30分という限られた時間で行うセミナーは最後の５～10分間質疑応答の時間を設けて受講生からの質問を受け付ける程度でしかコミュニケーションが発生しないことが多く、本当の意味での「双方向」は難しい。2020年度から行ってきたセミナーの双方向リアルタイム配信実施状況を振り返ると、音声通話やチャット機能を使って質問する学生の数は少ない。一方で、レポートの書き方やメールの書き方、文献検索の方法などについて、アカデミックサポートエリアに質問に来る学生は常に多い。これらは毎年セミナーで扱っている内容である。セミナーを受講した上で、理解を深めたい、もっと学びたい学生が個別で相談に来るという流れを作ることが理想であろう。セミナーを受講して解決できるような悩みを抱えている学生がセミナーを活用できるよう、質問しやすい雰囲気づくりとセミナーの存在をより多くの学生に周知する必要性を感じる。さらに、2020年度からオンデマンド配信を行っているセミナーの中には、YouTuberの技術を参考に、目を引くサムネイル（見本）画像の作成や、動画撮影に使用する機材、編集を工夫（矢内 2021）しているものもある。このように創意工夫を凝らしたコンテンツはやはり再生回数が多く、中身はもちろんであるが、伝え方や見せ方の大事さに今一度気づかさ

れる。セミナーの形態が変化してゆく中で今後もいくつか課題が出てくると考えられるが、常に試行錯誤をしながら改善に努めたい。

付記

本稿で使用したデータは、同志社大学学習支援・教育開発センターの許可を得て使用した。

文献

鈴木夕佳, 岡部晋典, 浜島幸司, 2016,「学習支援と学部教育はいかに連携できるのか――良心館ラーニング・コモンズでのセミナー実践をもとにして――」『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』7: 42-62.

矢内真理子, 2021,「コロナ禍におけるアカデミックスキルセミナーの実施状況」『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』12: 42-45.

矢内真理子, 2021,「アカデミックスキルセミナーにおける動画配信時の工夫」『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』12: 46-54.

【執筆担当:趙(1～3、5)、矢内(4)】